

業況レポート

情報連絡員報告

平成24年12月期

製造業

- ◇パン…例年より低調。原発風評被害の関係も多少あるが、消費者もお金を使わない傾向が見られ先行き不安。
- ◇酒…課税移出数量は8月以降前年を上回ることが出来ず11月は前年比96.6%に止まる。焼酎乙類は113%と持ち直した。市場環境は国内での大きな伸びは期待できない反面、輸出への取り組みに積極性がうかがえる。3月下旬に「新酒を啣く会」を開催する予定。
- ◇納豆…売上高は野菜類の高騰で加工食品が恩恵を受けているように納豆も例外ではない。流通の価格競争は激化の一途であり、品質重視から価格重視へとシフト。大手流通に相手にされなかった中小メーカーが価格を下げ売場に並ぶようになったが、採算が取れているのか疑問。
- ◇菓子…上旬・中旬は和菓子類、下旬はクリスマスケーキ等の売上増を期待したが相変わらず顧客の財布の紐は固く、景況は弱含みで推移した。
- ◇繊維製品（袋物）…中国の旧正月対応商品が国内に流れることもあり、全体として仕事量は増加の様子。
- ◇繊維製品（縫製）…例年通り売上高は増加したが、残業対応に伴い収益面の改善が進んでいない。
- ◇木材…住宅大手の仕事を中心にプレカット工場は高い稼働率を維持。消費税増税前の駆け込み需要で激しい受注競争が見られる一方、地場の工務店はこうした動きが見られず。市況全般に弱保合。
- ◇プレカット…一部材料に欠品が出始め加工材の入荷も遅れ始めた。出荷日近くに納材となるため加工坪数が伸びず。
- ◇段ボール…年末で新年度に向け、物が動きだ少し忙しくなった。新年度の価格値下げ要求も出始め収益の悪化が心配される。
- ◇総合印刷…例年に比べ繁忙感が乏しく低調に推移。
- ◇焼物…依然として震災前の状況に戻りきれず、生産、販売者とも厳しい状況。
- ◇鍍金…売上高は前年比10~20%減。家電、自動車部品等は30%近い減少のところも。建築関係を除く全ての業種の得意先から受注が減。特に機械加工の得意先からの受注量が激減。金属材料、工業薬品とも価格は変わらず。
- ◇重電…親企業の受注が入れば仕事量が増えると思われるが、グローバル化に伴う海外での生産が進むと国内での仕事量にどのような影響が出るか不安を感じている。
- ◇電化機器…当月生産高は822百万円。家電関連は対前年同月比7.4%増に対し、自動車関連は△14.1%。自動車関連親事業所の生産拠点の海外移転が加速し、国内量産物の受注減少が顕著になってきた。
- ◇自動車部品…先行き不安のまま年越したが、更に悪化の兆しも感じられる。
- ◇工業団地（農機部品）…組合員7社中3社が売上増で、全体では前年同月比105%。仕事量は組合員企業によりばらつきがあり、納品先が同じであるだけに先が読めない。

非製造業

- ◇セメント卸…袋セメントの出荷袋数は前年同月比△3%、前々年比では5%増加。震災工事が依然続いている。
- ◇水産卸…精算所取扱高は前年同月比2.73%減。年末の

- 朝市（12/27~29）で、一般買物客で大いに賑わった。
- ◇食品卸売…青果物関係は単価高で推移。高値により消費が伸び悩み、個々の小売業では利幅がなく収益を確保できない状況におかれている。
- ◇県南地区卸売…総じて売上高の減少により景況は悪化。
- ◇県北地区共同店舗…競合店の大規模増床改装オープンの影響が大きく大苦戦。初売りへの影響も懸念される。
- ◇県央地区共同店舗…水戸の商業施設の増床により集客が落ちた。セール時期を前倒した店舗は売上を確保。生鮮食品を中心に集客を伸ばした。
- ◇県南地区共同店舗…年末商戦の需要が低迷（特に食料品関連）。先行き消費動向が懸念される。
- ◇家電…LEDシーリングライトのキャンペーンを展開し年末商戦に弾みをつけた。暖房用品等の需要もあり売上は前月比では増加。依然としてテレビ、白モノ家電等は量販、ネット通販に押され伸び悩みの状態。
- ◇中古自動車…出品台数は新車販売の不振に伴う中古車のタマ不足により減少している。
- ◇石油…ガソリン販売価格は前年同月比3円上昇。販売量が減少しているため売上も減少。円安により年末の仕入価格が上昇したが安値販売競争の激化で仕入価格の上昇分を転嫁できず廃業等に追い込まれる組合員が増加。
- ◇ホテル旅館…地元の方々の忘年会などに助けられた感があるが、宿泊を伴わないケースが多く宿泊売上は減少。
- ◇自動車整備…組合員事業場の車両入庫状況指数である継続検査台数（持込検査）は前年同月比普通車98.2%、軽自動車は92.5%でともに減少。
- ◇管工事（県南）…年内に材料を購入する工事店が多く、売上が若干増加。
- ◇交通安全施設…補正予算案による公共工事に期待。
- ◇電気工事…太陽光工事が増加している。
- ◇県北地区運輸…年末の繁忙期であるが、主要顧客の出荷物量は昨年より減少。円安により燃料価格が上昇傾向となり収益を圧迫。
- ◇県央地区運輸…年末に向けすべての荷動きが良好（食品、加工製品、生活用品、タイヤなど）。中旬から下旬にかけてトラックが不足。軽油は高止まり。

H24.12月の業界天気図

業種	指数	売上		収益状況	
		前年同月比		前年同月比	
食料品製造業		▲ 50.0			▲ 50.0
その他製造業		▲ 20.0			▲ 45.0
卸売業		▲ 75.0			▲ 75.0
小売業（商店街を含む）		▲ 27.3			▲ 27.3
サービス業		▲ 100.0			▲ 100.0
建設業		0.0			▲ 20.0
運輸業		▲ 50.0			▲ 50.0
全体		▲ 32.0			▲ 44.0

【天気図の見方】 県内情報連絡員が毎月いただいている情報連絡票の景況項目について、「増加」（又は「好転」）業種割合から「減少」（又は「悪化」）業種割合を差し引いた値（DI値）をもとに作成しています。その基準は、下図のとおりです。

30以上	10~30未満	10未満~▲10	▲10超~▲30未満	▲30以上

※表の中の数値はDI値